

健センター)：岡山県における地上風向と酸性雨の地域特性について

- C355. *鶴田治雄・太田正雄・渡辺善徳・矢本てるみ・平野耕一郎(横浜市公害研), 石坂 隆(名大・水圏研)：乗鞍岳における霧水の化学組成(第一報)
- *C356. *太田幸雄・村尾直人・溝口 勲(北大・工), 栗飯原範行(昭和電工株)：大気中過酸化水素の雲水酸性化に及ぼす効果
座長 川平浩二(富山工専)
- C357. *速水 洋・村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北大・工)：バックグラウンドオゾンの都市大気環境に及ぼす影響
- *C358. *青木周司・和田 誠・川口貞男(極地研), 功刀正行・溝口次夫(国立公害研), 村山昌平・中澤高清(東北大・理)：南極昭和基地における地上オゾン濃度の連続観測
- C359. 近藤幸治(高層気象台), 岩坂泰信(名大・空電研), 川平浩二(富山高専)：南極成層圏におけるオゾン量変化と気温変化
- C360. 川平浩二(富山高専), 広岡俊彦(気大)：オゾンホールと平均風変動の相互関連
- C361. 笹野泰弘・中根英昭・林田佐智子・杉本伸夫・松井一郎・湊 淳(国立公害研)：成層圏・対流圏オゾン観測用多波長レーザーレーダー：その4 成層圏オゾン濃度の季節変化(1988年8月~1989年6月)
- *C362. *秋吉英治・瓜生道也(九大・理)：簡単なモデルによる月別オゾン全量の緯度分布

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし、著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

編集後記：今年はこれまでのところ台風の当たり年と言えそうです。8月末の現時点で18個発生しており、そのうちすでに2個が九州に、1個が関東に、さらに1個が四国から近畿に上陸しました。皆様の地方への影響はいかがだったでしょうか。昨年の8月にも台風が多く発生しましたが、その発生場所は日本のごく近海で、いわば未熟児の状態で日本へやってきました。今年の発生位置は北緯20度付近で、十分に発達してから日本に近づいたので被害も大きくなったようです。近年、強い台風の日本への接近・上陸が減ってきていると言われますが、天災は忘れたころにやってくる、と申しますから、災害への備えを怠らないようにしたいものです。

さて、暑かった夏も過ぎ、スポーツの秋、文化の秋そして読書の秋がやってきました。天気編集委員会では、ご好評をいただいた「気象学への手引き」の続編として最近10年間に発行された気象学関連書籍の簡単な紹

介を分野別にその道の専門家の方にやっていただく企画を準備中です。気象学も細分化が進んでおり、すべての分野について最新の状況を把握することはほとんど不可能と言えるのではないのでしょうか。この分野についてはこのような教科書がある、あるいは、この本を読めば最近の状況がわかる、といった情報を専門以外の人々にわかっていただけの欄にしたいと考えています。

また、「本だな」の欄の充実を望む声も上がっています。編集委員会としても努力はしてまいりますが、数多く出版される気象関連書(洋書を含む)を網羅的に入手し書評を依頼することは難しいように思います。そこでお願いなのですが、会員の皆様がこの秋の夜長にお読みになった本で、これは他の気象学会員にも読んでもらいたい名著あるいは特色のある本であると、思われるものがありましたら、ご紹介いただけないでしょうか。編集委員会宛てにお気軽にご投稿ください。(吾)